

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会 会報

★★「第4回ドイツフェスティバル in ぐんま」特集★★

2011年11月15日

39号

発行者 鈴木 克彬

発行所 ぐんま日独協会
〒371-0105

群馬県前橋市富士見町石井 2445-219

電話 : 027-288-4297

E-mail : info@jdg-gunma.jp

ホームページ : <http://www.jdg-gunma.jp/>

ホームページ右下『ハイマート』から本誌をカラーでご覧いただけます。



会長あいさつ	2
1. 第4回ドイツフェスティバル in ぐんま 報告	3～7
2. 全国日独協会関連	
全国日独協会総会 報告	8
日独交流150周年記念功労賞受賞 報告	9
全国日独協会連合会「若手会員の集い」報告	10～15
3. トピックス 日独交流150周年記念菩提樹植樹式	16

「第4回ドイツフェスティバル in ぐんま」開催のお礼

協会員の方々および関係する皆様方のご支援ご協力をいただき、無事「第4回ドイツフェスティバル in ぐんま」を開催することができました。特に祝日・週末の3日間は、1日2,000～2,500人程の来場者があり、会場は熱気に包まれました。

内容的には、「150年前にドイツ人が描いた江戸風景画展」と「当会員によるドイツ音楽コンサート」は大好評で、多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。

ここにご報告とともに厚くお礼申し上げます。

なお、10月22日(土)の『全国日独協会連合会主催 全国若手会員の集い』で、当協会活動内容をまとめた現況報告を2-4項に掲載しました。ご一読ください。

ぐんま日独協会
会長 鈴木克彬

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

オープニングセレモニーのプログラムは以下のとおりです。(司会：降旗ふさ江)

12:55 清心幼稚園児による駐日ドイツ公使お迎え



13:00 開会 ドイツ国歌 ヘルマンハーブ演奏 島村敦子 (ぐんま日独協会)



ドイツ国歌独唱

北原正恵 (ぐんま日独協会)



日本国歌 (君が代) 独唱

鷹野 恵 (ぐんま日独協会)



13:10 挨拶 ぐんま日独協会会長
ご挨拶

鈴木克彬



ドイツ連邦共和国大使館首席公使シュテファン・ヘルツベルク様



群馬県副知事

池本武広様



全国日独協会連合会会長代行

木村敬三様 (元駐独日本大使)



ご来賓紹介



左から群馬県生活文化部長 小此木様、木村様ご夫妻、平形名誉会長、婦恋村村長 熊川様、北関東循環器病院長 南様

ヘルマンハーブ合奏

島村敦子 (ぐんま日独協会) 他



ピアノとヴァイオリンの演奏

澤田まゆみ (ぐんま日独協会)

小田原由美 (ぐんま日独協会)



13:45 閉会



1. 「第4回ドイツフェスティバル in ぐんま」報告 (近藤 基晴 記)

1-1. オープニングセレモニー

9月23日13時より、降旗ふさ江さんの司会のもと、ヘルマンハーブによるドイツ国歌演奏、北原正恵 当協会会員によるドイツ国歌独唱、鷹野恵 当協会会員による日本国歌（君が代）独唱でセレモニーが始まりました。鈴木克彬 当協会会長の挨拶とシュテファン・ヘルツベルク 駐日ドイツ連邦共和国首席公使による流暢な日本語によるご挨拶に引き続き、池本武弘 群馬県副知事、元駐独日本大使の木村敬三 全国日独協会連合会会長代行の各氏からそれぞれ暖かいご挨拶をいただき、フェスティバルの公式スタートとなりました。



セレモニー会場



ヘルマンハーブによるドイツ国歌演奏



北原 協会のドイツ国家独唱



鷹野 協会の日本国歌独唱



ヘルツベルク 首席公使ご挨拶



池本群馬県副知事ご挨拶



木村日独協会連合会会長代行ご挨拶

このあと、ご来賓紹介に続き当協会会員によるヘルマンハーブ演奏およびピアノとヴァイオリンの演奏でオープニングセレモニーを終了しました。



島村 協会会員他によるヘルマンハーブ合奏



澤田 協会のピアノと小田原 協会のヴァイオリン演奏



1-2. 音楽関連イベント

さまざまな音楽イベントが企画されました。「ヘルマンハーブの響き」と題してヘルマンハーブによりドイツと日本の歌が演奏されました。ヘルマンハーブとはダウン症の息子さんをもつドイツ人ヘルマン・フェー氏がダウン症の子どもでも弾けるようにと自ら開発し、1987年に完成した小型ハーブです。日本ではまだめずらしい楽器の音色に心を癒されました。また、当協会会員による「日独交流150周年記念コンサート」では、すばらしいヴァイオリン・ピアノ・指笛の演奏、ならびに、うっとりする歌声を堪能しました。当協会会員以外では、民族衣装を着て踊ってくれた前橋市フォークダンス協会、群馬ホルンクラブによるドイツの響き、一般参加者によるドイツ音楽コンサートと盛りだくさんでした。



会員などによるヘルマンハーブ演奏、



会員によるソプラノ、ピアノ、ヴァイオリン



会員によるソプラノ、ピアノ



前橋市フォークダンス協会



群馬ホルンクラブ



協会員出演者一同

一般参加の出演者の方々もすばらしい演奏・歌などをありがとうございました。

1-3. 出店販売

さまざまなドイツ製品の出店販売が行われ大勢の来場者で賑わいました。健康靴、おもちゃ、アクセサリ、時計、メルクリン鉄道模型、紅茶、ワイン、ビール、パン、ソーセージ、岩塩、グミなどがならび、お目当ての品物を買求める来場者が多数訪れました。また、戸外ではドイツ車19台が24日・25日の二日間展示され多くの来場者の垂涎の的となりました。



出店販売各ブース例と戸外のドイツ車19台一斉展示会場

1-4. パネル展示

「ドイツ人画家による日本風景画展」(詳細次項1-5)、「ベルツ展」、「ブルーノ・タウト展」、「ドイツ都市写真展」、「ドイツ観光展」、「ドイツ環境展」、「ドイツ製太陽光パネル展」、「函南少年サッカー展」、「新町スポーツクラブ紹介」、「エクスレ鉄道展」、「ドイツ旅行展」のそれぞれの展示が行われました。「ドイツを知ろう」という種々の紹介や、明治初期から現在に至るまでの日独交流に触れる興味深いものでした。



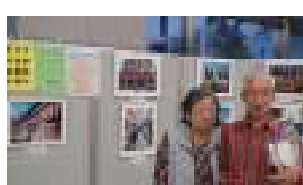
ドイツ人画家による日本風景画展会場。詳細は次項



ブルーノ・タウト展、



ベルツ展、



会員によるドイツ都市写真展、



3つの展示会場全景



ドイツ観光展



ドイツ環境展



太陽光パネル紹介



函南少年サッカー (毎年ドイツにチームを派遣)



新町スポーツクラブ (ニュールンベルク市との青少年交流に尽力)



ミニ蒸気機関車『エクスレ鉄道』紹介 (一旦廃止になった鉄道を復活させた「博物館鉄道」の一つ。日本から25名が株主として経営に参加。会員を中心に毎年日本人株主が増加。あなたもすぐに株主になれます。問合せは当協会)



JTBドイツ旅行案内

1-5. 150年前の江戸・長崎風景画 30 枚展 (まとめ: 近藤 基晴)

プロイセンはフリードリヒ・アルブレヒト・ツー・オイレンブルク伯爵を隊長とする東アジア遠征隊を派遣し、1861年1月24日に日普修好通商条約を成立させました。遠征隊の一員である二人の画家が描いた30枚の江戸・長崎風景画を仙台日独協会・天理大学附属天理図書館・榊雄松堂書店・他関係者のご厚意により展示することができました。来場者からは多くのお褒めの言葉をいただきました。あらためてお礼申し上げます。

この遠征隊は、条約締結のみならず日本の歴史・文化・自然科学等を深く調査することを目的としましたが、攘夷派による不穏な情勢の中での条約締結までの苦労と、当時の日本の情勢とが共によくわかりますので、上陸前後の状況から条約締結までの激動の流れを要約します。(カッコ内と写真は榊雄松堂書店『オイレンブルク 日本遠征記 上・下』からの抜粋。下の写真はいずれも30枚展には含まれていません。)

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

1860年3月24日: 桜田門外の変発生。

*攘夷派の動きが活発になる中、幕府はプロイセンとの条約締結を望まず、プロイセン艦隊の上陸に先んじて米・英・仏などに対してプロイセン艦隊を江戸沖に来させないよう依頼。

1860年9月4日: 上記依頼にもかかわらず、オイレンブルク伯一行が江戸沖着。翌朝、アメリカ公使館は書記官ヒュースケンを艦上へ送って通訳の援助を申し出る。

1860年9月5日: 伯は幕府に書面で到着と派遣の目的を述べ、上陸の許可を乞う。

1860年9月6日: 幕府より書面回答で住居の用意と9月8日の上陸を許可。

1860年9月8日: 雨の中を上陸して宿舎に入る。その夜台風襲来。



プロイセン使節の江戸入り



オイレンブルク公一行メンバー。中段右が公

1860年9月9日: 天候の回復を待って何人かは近くの通りを散歩。「午後は通常ピクニックに出かけた。」「われわれの滞在期間ははじめから限られたものであったから、その間にできるだけ多くのことを学ぼうとし、市内のあらゆる方向に向けて探索したのである。」

1860年9月14日: 公使一行と外務閣老安藤対馬守の第1回会談。対馬守の説明は、「友好関係に入りたいところではあるが、条約はやはり、世論が和らぎ改まってはじめて結ぶことができる」というもの。

1860年10月2日: 閣老との2回目の会談をするも進展なし。

*この間の宿舎周辺状況は「この地方[品川: 筆者註]では武士つまり大名の扈從たちが、外国人に対して罵言や手に持った刀で威嚇的な振舞をして邪魔することもしばしば生じていた。これは品川に限らず、われわれがよく散歩する一帯もその点では

安全ではなかった。」

1860年12月6日：閣老と伯の双方から信頼の厚いハリス氏を仲介としての交渉により、いくつかの条件付きで条約締結の用意がある旨の幕府側通告あり。「幕府当局との交渉は、条約の基本で一致をみて以来、当然のことながら活発になった。だが、実り豊かな談判に至るまでには、プロイセン以外の諸邦が条約に加わることを貫徹するため公使のむなしい努力が数週間も続いた...。」宿舎での生活は、「冬はますます本格的になり、紙の家に住むことは以前以上に快適でなくなった。われわれは部屋に火鉢を置いて暖めねばならなかったが、部屋にはときにいやなにおいが広がるのだった。召使は、火鉢を室内に運ぶ前に戸外に出して、炭を完全におこすよう命令されていた。だが、いったい誰にそこまで待つ忍耐力があるであろうか！」

1860年12月下旬：対馬守は、関税同盟諸国・メクレンブルク大公国・ハンザ諸都市を含まないプロイセンのみとの条約をできるだけ早く検討したい旨表明。12月28日、奉行たちと条約審議の会議を開催。

1861年1月3日：交渉の本質的な部分終了。

1861年1月16日：大君あて贈物を幕府側が受取る。これは条約調印の確証を意味する。

*この時期の世情はさらに厳しく、浪人の襲撃計画があるので住居を替えて警備を厳重にする用意があるとの幕府側提案が元旦にあったが伯はその提案を断る。1月16日の夜ヒュースケンがプロイセン宿舎から家への帰りに浪人に襲われ落命。

1861年1月18日：条約締結交渉における貢献が絶大だったヒュースケンの埋葬。



ヒュースケンの葬儀：

葬列に対して一味が攻撃を計画しているとの幕府忠告があり、幕府の弱腰の警護では納得しない外国側は諸国共同の軍隊で警備して断固葬列を実施

1861年1月24日：午後一時ごろ条約調印。調印後は参列者に贈り物を贈った。「その後一同は記念撮影をし、上機嫌で別れた。」（遠征隊に写真師が1名同行していた）

1861年1月28日：早朝雪の降る中、見知りの役人全員が集まって硬い握手をしてボートに乗り込み万歳三唱。ボートは4時にはアルコーナ号に到着。荷物・飲料水の到着を待って29日にアルコーナ号出港。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

そのおよそ1年後

1862年2月14日：条約交渉の日本側責任者 安藤対馬守が襲撃されて瀕死の重傷を負いながら一命を取りとめた（その後、位は昇進し職は免じられた）。

このように厳しい幕末の政治状況の中で、日普友好通商条約は締結され日本は明治維新、ドイツはドイツ帝国統一という大きな変革を経ながら今日につながっています。

2. 全国日独協会関連

2-1. 全国日独協会総会（全国日独協会連合会主催）報告（對馬 良一 記）

月 日 : 平成23年10月21日（金）
場 所 : ナビオス横浜「カナル」
実施団体 : 横浜日独協会・湘南日独協会
後 援 : ドイツ連邦共和国大使館
参加協会 : 29 協会 63 名（来賓、オブザーバーを含む）、委任状 16 協会
来 賓 : 横浜市長 林 文子 様
ドイツ連邦共和国大使館文化部長 クラウス オット シュミット様
ベルリン独日協会 会長 Görger 夫妻・竹谷副会長夫妻
独日青少年協会副会長 Gesa Neuert 様

議案とその結果

- 1) 新規加入希望協会（沖縄ドイツ協会・いわき日独協会）、退会協会（青森日独親善友の会）承認の件 → 承認。（2011年10月現在日独協会連合会は60協会に）
- 2) 連合会副会長1名増員（仙台日独協会会長 大和田泰夫氏）の件 → 承認。
- 3) 連合会規約一部改正（財団法人から公益財団法人への変更に伴う規約改正）について → 承認。
- 4) 年会費の決算及び2011年度会費の件 → 承認。
- 5) 義援金の使途について → 承認（東日本大震災に伴うドイツからの義援金の大半は直接ドイツ側が義援先を決めている。連合会側で義援先を決定できるのはその一部の5万ユーロのみ。議論の末、賛成多数で執行部案承認。）
- 6) 「日独交流150周年」記念事業収支について → 承認。
- 7) 来年度の年次総会開催地決定 → 2012年4月後半に東京で開催。

報告

- ・各地協会：「日独交流150周年」記念事業実施状況等の報告。
- ・ぐんま日独協会状況説明内容：「ドイツフェスティバル in ぐんま」に臨席した Stefan Herzberg ドイツ大使館首席公使、木村敬三元駐独大使もその活気に感心されていた旨報告。懇親会席上、各協会から当協会の運営方法に多くの質問があった。会員が経営するロンネフェルト紅茶店での月1回のドイツサロンにドイツ人若者を招待し、毎回30~40名の参加があること、またドイツ生活経験者、ドイツへの旅行・留学希望者などが集まったの情報交換などが実を結んでいる旨説明すると、各協会から感嘆の声があがった。Görger ベルリン独日協会長からは、今年5月の当協会のベルリン訪問に感謝の言葉があった。

総括

どこの協会も高齢化が進み若い会員の確保が困難な状況であるのが実態。幸い当協会には若い会員も多いので、若者が行事の企画立案に携わって欲しいこと、また、誰もが気楽に参加でき話が出る楽しい会になるようにさらに努力しよう、と決意した総会でした。

2-2. 日独友好賞受賞報告（長谷川 早苗 記）

日独友好 150 年の今年、草の根的、またボランティアとして活動してきた人々を対象に日独友好賞が贈られました。10月19日に大使館で行われた授賞式の様子をお伝えします。

この賞は日本の非営利株式会社ビッグ・エスインターナショナルとドイツのロバート・ボッシュ財団が共同で企画したもので、日本では功労者部門 41 名、奨励者部門 19 名の計 60 名が選出されました。ドイツでも同等数の方々が受賞する予定です。



挨拶をされるシュタンツェル大使



ビッグ・エスインターナショナル社長大阪氏。
右側はロバートボッシュ財団事務総長ベルク氏

鈴木会長にご推薦いただき、ぐんま日独協会からは副会長兼事務局長の對馬良一さんと、事務局員の長谷川早苗が功労者部門で表彰されました。對馬さんは独日協会から訪れた何十人もの旅行団に添乗したり、津軽三味線奏者の甥御さんと共にドイツ 50 市以上で演奏会を行ったりと精力的に活動しています。私、長谷川はドイツから協会に来る連絡や問い合わせを 100 通以上訳したり、ドイツ語でやりとりしたりするなどのお手伝いをしてきました。

また、群馬からはもう一人、新町スポーツクラブの小出利一さんがニュルンベルクとの青少年交流を評価され、受賞しています。

授賞式は大使公邸で行われ、たくさんの方であふれていました。群馬からの 3 人もそれぞれ家族を連れ、少し緊張しながらも晴れやかな場にニコニコ顔です。上毛新聞からも取材に来てくださいました。関係者の挨拶の後、シュタンツェル大使より一人ひとりに感謝状が贈られます。「ブログ（ネット上の日記）を読んでいます」と声をかけると、笑顔に。時間はあまりなかったのですが、ほかにも何名かの方とお話することができました。



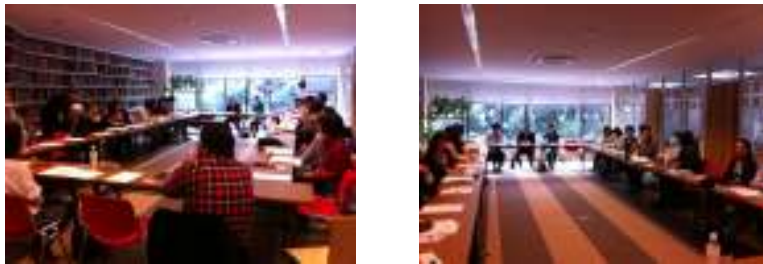
群馬県からの受賞者 3 名（写真左）。大使から賞状を手渡される對馬会員（写真中）と長谷川会員（写真右）

今回の賞で気持ちも新たに、日本とドイツをつないでいく活動をしていきたいと思っています。

2-3. 全国日独協会連合会「若手会員の集い」報告1 - 全体報告(田村 智美 記)

主催 : 全国日独協会連合会
参加団体 : 12協会
参加人数 : 約30人(おおむね40歳以下の各地の日独協会員)
日程 : 2011年10月22日(土)
場所 : ドイツ文化センター4階(東京都港区)
時間 : 14:00~17:30(予定を1時間オーバー)

自己紹介の後、それぞれの協会の過去一年の活動と、現在の若手会員の人数や抱えている問題を報告した。(ぐんま日独協会の報告内容詳細は12ページ参照)



会議場全体の様子

【主な各協会の活動報告】

各協会さまざまな活動をしているが、映画鑑賞会・ドイツ語勉強会・食事会・コンサートは多くの協会でおこなっていることであった。地域別の課題例は下記のとおり。

- ・栃木県では協会の活動とは別にユースサミットという一ヶ月のプログラムを毎年組み、ある年は日本人がドイツへ、翌年はドイツ人が日本へ、と交互にそれぞれの国に訪れ、ホームステイと企業でのインターンシップの活動を行っている。本プログラムはプログラム参加OBである20代前半から中盤の若手スタッフが運営している。
- ・和歌山県ではドイツとのつながりも少なく、興味をもってくれる人が少ないため、活動もまばらである。また、県内在住のドイツ人は2人しかおらず、二人とも山奥に暮らしているため、協会の活動に協力は見込めない。
- ・地方都市では若手会員の定着に苦労している、その若手自体も少ない、ドイツ人が少ない、などの問題がある。
- ・中堅都市ではドイツ関連団体があってもアプローチ作りができていない、ドイツに興味のある日本人に十分に告知できていない、などの課題がある。
- ・東京では在住ドイツ人に東京以外の日本も知ってもらうための地方協会へのバスツアーを企画したい、話があった。

【その他の問題】

- ・若手は経済的問題から年会費を支払えないという理由で入会を断る若手も多い。
- ・非会員でも協会行事に参加できるため、入会のメリットがあまりない。 → 行事

の参加費に協会員と非会員とで差をつけるべき？

- ・複数の県に加入している会員はできればある協会に加入すれば、他の地域の協会にもスライドして入会できるシステムを作ってほしい。→各地元協会は会費が活動の基盤となっていて、そのシステム採用は現実的に難しい。

【結論】

- ・地方と都市部では、在住の若者やドイツ人の数に差があり問題は様々である。
- ・地方では、会員になる特典をつくるまでには至らず、若手に会に参加してもらうことにまずは注力するしかない。
- ・今回のような機会を持ち各地と問題を共有することにより、問題を打破したい。

【新たな提案】

- ・日本に定着したオクトーバーフェストの設備貸し出しを全国で順繰りに行い、たとえば各月でどこかでオクトーバーフェストを行ったらどうか？→設備料の節約と、ドイツ文化の周知に役立つ。
- ・東京の場合のように、日独協会の会員になれば地元の他欧州協会の活動に特別料で参加できる相互システムを地方でも作ったらどうか。→ドイツに特化する必要がなくなるため、欧州に興味がある人を広く会員として取り入れられる。



真剣な会議の様子



お疲れ様でした。Guten Appetit!

【全体の感想】

上記のように各地方でそれぞれの悩みを抱えているが、今回のように現状を報告しあい、悩みを共有し、他県協会の活動に啓発される機会を持つことは大変有意義なことであった。このようなミーティングを重ね、横のつながりを深めることにより、今後の他協会と連携した活動を行う際には大いに役立つと確信した。

我が群馬はHPでの活動の周知や、「ドイツ好き集まれ」というとにかくドイツに興味がある人たちなら誰でも参加OKと窓口を広く開けているため、全国でもまれに見る若手会員充実の成功例である。また月一回のドイツサロン開催で、年齢の垣根を越えた会員同士の交流も、定着力の要因であると思う。今後は近隣の県との交流も深めていけたらより広い活動が行えるのではと感じた。

2-4. 「若手会員の集い」報告2 - ぐんま日独協会の報告内容（高野 誠 記）

日時 : 平成23年10月22日（土）

場所 : 東京ドイツ文化センター

ぐんま日独協会出席者 :

高野 誠(発表者)、高野 広美、長谷川 早苗、田村智美、成田美和（5名）

以下、高野会員によるぐんま日独協会活動報告の原稿です。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

皆さん、こんにちは。ぐんま日独協会です。本日、ぐんま日独協会は5名という、参加協会の中で最多の人数で臨んでおり恐縮です。早速ですが、ぐんま日独協会の活動状況についてご報告させていただきます。お配りした1枚物のペーパー「報告の要点」に書かれている順番に従ってお話させていただきます。

まず、定期的な活動として「ドイツサロン」があります。「ドイツサロンとは一体何か？」ということですが、簡単に言えば、「ドイツ好き集まれ！」とのキャッチフレーズの下、集まった日本人やドイツ人の定期的な会合、つまりシュタムティッシュのことを、私たちはこのように呼んでおります。原則として毎月、第1土曜日に群馬県高崎市内の喫茶店において開催しております。ドイツサロンは、約4年ほど前から始まった取り組みですが、以来、今日まで1度も中断することなく続けております。

ドイツサロンには、ドイツ語圏出身のドイツ語を母国語とする方が毎回、少なくとも1人は来ており、ドイツの教育制度、日本とドイツの習慣の違いなど、様々なテーマについて、パワーポイントを使用するなど分かりやすい形で解説をしてもらっています。日本側からも質問等が行われ、時には議論に発展することもあります。

その後は、参加者同士が自由に歓談するという形で、土曜日の午後の時間が流れていきます。このドイツサロンは、完全にオープンな形をとっており、会員であろうとなかろうと、「ドイツに興味を持つ人なら誰でも大歓迎！、個人の都合に合わせて出入り自由！」ということをもットーにしています。ぐんま日独協会の会員が営んでいる喫茶店を会場にしているため、参加費は、飲み物代としての500円だけであり、誰もが気軽に参加できるものです。ちなみに飲み物については、ドイツ紅茶「ロンネフェルト」やコーヒーが飲み放題となっています。

このドイツサロンの効果について少し触れたいと思います。

第1は、何と云っても、多くの方、とりわけ若い人が新たにぐんま日独協会のメンバーとなり、その結果、組織が活性化し、日頃の活動が目に見えて充実・強化されたことです。

第2は、年代を超えた会員同士のつながりが生まれ、人的ネットワークが劇的に広がったと感じている会員が相当数にのぼるということでもあります。とかく、社会人になると人との新たな出会いというのは、仕事関係などに限定されてしまう傾向

があるかと思えます。

このドイツサロンは、「ドイツ」というキーワードを通じて、そうした誰もが感じているであろう閉塞感を打ち破り、多様な分野において、様々な理由からドイツに興味・関心を持つ人々と出会い、関係を深める役割を果たし得ていると確信しております。現在、ドイツサロンの参加者は、10代の高校生から90代のお年寄りまで年代を超えて広がっており、そうした中でお互いが刺激を受け、より豊かで充実した人生を送れる手段の一つとなっています。

昨年、このドイツサロンを通じて知り合った男女がついに結ばれ、人生を共に歩むに至るといふ喜ばしい出来事がありました。このことはドイツサロンの意義を何よりも雄弁に物語っていると思えます。

なお、このドイツサロンの後、若手会員が集まり非公式「オフレコ食事会」なるものも開いております。時にはドイツ人ゲストの方も交えて開いていますが、同じ年代という気安さもあってか、話が盛り上がり、若手会員のさらなる結びつきの強化につながっています。

次に「ドイツフェスティバル in ぐんま」についてであります。これはぐんま日独協会最大のイベントであり、2年に1回、群馬県庁において開催しております。今年も9月の三連休を含めて、連続5日間にわたり行いました。2005年の初開催から数えて、今年が4回目となりました。

今年、日独交流150年にちなみ、150年前に江戸幕府と修好通商条約を締結するために来日したプロイセン使節団が描いた幕末の日本の風景画の展示、一般人も参加してのドイツ音楽演奏会、ドイツのフォークダンスの披露、ドイツのパン、ソーセージ、ビール、ワイン、木製おもちゃ、靴、腕時計などの販売、メルクリンの鉄道模型の実演、ドイツの主要な自動車メーカーに協力をいただいていたドイツ車の展示、ドイツの風景写真の展示などを中心に開催いたしました。

5日間で延べ1万人以上の方にお越しいただきました。非常に多くの方にドイツを紹介でき、かつ、ドイツに対する理解を深めていただき、そして何よりもパンやソーセージなど本物のドイツの味を堪能してもらったという点において、ぐんま日独協会の全会員が充実感を噛みしめているところでもあります。来場者の中には、手書きのイラストや文章が綴られたポストカードを協会に送ってくれ、感動を伝えてくださった方もいました。

今回は、20代から90代の会員百数十名が全てボランティアでこのフェスティバルを運営しましたが、このような非常に幅広い年代の人々のエネルギーが結集できたのも、先ほど申し上げた「ドイツサロン」の賜物であると考えております。

なお、今回初めて東京日独協会に所属しているドイツ人の方にもドイツの食品の販売などを手伝っていただきましたが、日独交流150年という記念すべき年にあたり、日本人とドイツ人がボランティアとして協力し、一つのイベントを成し遂げ、日独の絆がさらに深まったという点においても大きな意義があったものと思えます。早朝から晩まで全くのボランティアでありながら快く協力してくれた東京日独協会のニーナさん、タベアさんには心から感謝申し上げます。

日独少年サッカー交流に話を進めたいと思います。これは、ぐんま日独協会がドイツ・ザールブリュッケンの独日協会と姉妹関係の協定を結んだことを契機に始まった小・中学生同士のサッカー交流です。約3年ほど前から始まり、これまでにドイツ側から来日1回、日本側からは3年連続でドイツを訪問しております。

内容ですが、群馬県のサッカークラブの少年たちがドイツを訪問し、現地ドイツ少年サッカーチームとの交流試合、各地の観光、ドイツのプロサッカー、ブンデスリーグの試合観戦などとなっております。

少年たちは、ドイツチームと同じスポーツ施設の寮に泊まり、同じ食事をとることになります。これは可能な限り交流が深められるようにとの、ドイツ側の配慮によるものですが、同時に滞在費用が抑えられるという利点もあります。リーズナブルな費用でドイツを訪れ、ドイツチームと交流試合ができた上、さらにプロの試合まで見られるとあって、この交流は、群馬県の少年たちにとっては憧れとも言うべき存在となっております。毎回、非常に人気のあるものとなっております。

ぐんま日独協会としては、次の時代を担う少年同士の交流を重視しており、今後可能な限りの支援をしていきたいと考えています。

次にドイツ音楽会の開催についてです。これは、当協会のドイツ留学経験会員による自前のコンサートで、毎年必ず1回は開いております。ちなみに昨年は、クリスマス音楽会として企画し、パイプオルガン奏者の方をお迎えして開催しております。本年も同様にクリスマス音楽会として行う予定です。

なお、今年の「ドイツフェスティバル in ぐんま」のオープニングセレモニーにおいては、障害者教育に携わっているドイツ人の方が考案した、初心者でも簡単に曲が弾ける、ヘルマンハーブという楽器を用いて、ドイツ国歌が演奏されております。これは、ドイツサロンに参加した方から楽器の紹介を受けたことをヒントにして実現したものです。

ドイツ関係の講演会についてお話をさせていただきます。これは、いわゆる有識者を講師にお迎えしての講演会です。平成21年度においては、5回にわたり講演会を開催いたしました。ドイツ大使館の通訳・翻訳部長さん、草津温泉を世界に広めたことで知られる、ドイツ人ベルツ博士の記念館館長をされている方、ドイツ滞在経験があるマスコミ関係者などの方に講演をいただきました。それぞれの分野において精通している方からお話をうかがうということであり、会員にとっては非常に貴重な機会となっております。本年度においても、今後、講演会が2回予定されています。

次にドイツ人留学生の受け入れについてです。群馬県においては、高崎経済大学が毎年、交換留学生として数名のドイツ人を受け入れています。ぐんま日独協会のメンバーの中には、数年前からドイツ人学生と家族ぐるみ、あるいは会社ぐるみのつき合いを続けている方がおり、自宅でドイツ人留学生のためにホームパーティー

を開いたり、日本各地を案内するなどの活動をほとんどボランティアで行っています。

ドイツ人留学生もこうした温かいもてなしに対する感謝の表れだと思いますが、次にお話するドイツ語教室や各種イベントなどにアシスタントとして協力してくれています。

さて、そのドイツ語教室についてです。これは、ドイツ及びドイツ人を理解し、交流を深めるためには、ドイツ語の理解ということが極めて重要であることを踏まえて行っているものです。

現在、群馬県内2か所（高崎市及び前橋市）において授業をしています。

高崎教室は、会員でもある日本人の大学教授の方にボランティアで授業を行っていただいております。主に文法面からドイツ語の習得に励んでおります。ちなみに授業料は無料、教材費のみの負担となっています。

前橋教室は、東京都在住のドイツ人男性を講師として、ドイツ語のレベルに応じてクラスを分け、主に会話面の強化に力を入れております。

高崎・前橋、両方のドイツ語教室に所属し、ドイツ語の学習を根気よく続けていけば、文法・会話の両面において、バランスのとれたドイツ語力が身に付くものと考えております。

今日においても、ドイツ語がなお有用な言語であることは疑いの余地はないと考えており、今後もぐんま日独協会は群馬県内においてドイツ語の普及に力を尽くしていきたいと思っております。

最後に、ぐんま日独協会の今後の課題ですが、これはいかにして現在の組織を次の世代へつなげていくかということに尽きると思います。

現在のぐんま日独協会は、約22年前の設立時ころからの方が役員となって運営されています。年齢的には70代ということになります。

会長・副会長等、役員の極めて強いリーダーシップと企画力、率先垂範する姿勢のもと、会員の多くがドイツという共通の要素によって交流を深め合い、それぞれの世界が広がっていることを日々実感し、深く感謝してやまないところであります。

その一方で、世代交代、組織の若返りを図るという避けることのできない問題があるのも厳然たる事実です。

ドイツサロンによって活性化された組織をより若い世代がどう受け継いでいくか、これがぐんま日独協会にとって現在、最も重要な課題となっています。

以上、ぐんま日独協会の活動状況について報告させていただきましたが、最後に強調したい点があります。それは、群馬では、「ドイツサロン」というものをきっかけに、たくさんの若い人が集まり、その結果、協会の活動が活性化されたということでもあります。皆様の活動のご参考にしていただければ幸いです。ご静聴、ありがとうございました。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

3. トピックス 日独 150 周年記念菩提樹植樹式 (平方 秋夫 記)

11月7日、深まる秋の気配が濃厚な軽井沢の地、ホテルグリーンプラザ軽井沢(嬬恋村)において、日独交流150周年を記念して菩提樹の植樹式が行われました。

ドイツ連邦共和国大使館首席公使シュテファン・ヘルツベルク氏、群馬県生活文化部国際課課長小阿瀬達哉氏、群馬県吾妻郡嬬恋村村長熊川栄氏、ぐんま日独協会副会長對馬良一氏(鈴木会長病欠のため代理)が来賓として列席し、会場側からホテルグリーンプラザ辻課長代理が出席して5本の菩提樹の苗木がホテル正面駐車場脇の土手に滞りなく植えられました。



ホテルグリーンプラザ軽井沢正面



5人による植樹の瞬間



植樹プレート

席上挨拶に立ったヘルツベルク首席公使は、菩提樹の樹齢は1000年以上であることを説明され、日独両国の関係が菩提樹の成長と同様に永遠に発展し続けることを願っていると述べられました。続いて来賓各位から祝辞があり、花を添えていただきました。



来賓ご挨拶：對馬当協会副会長、ヘルツベルク首席公使、小阿瀬国際課課長、熊川嬬恋村長の各氏

この日の式典にはぐんま日独協会から副会長はじめ8名が参加、ホテル側から館野支配人他担当者数名が出席して雰囲気盛り上げました。式典後には参加者の昼食会が用意されて、和気藹々とした雰囲気の中で会食が進みました。特にヘルツベルク首席公使は気さくな人柄に加え日本語がとても堪能で、気軽に出席者に声を掛けて下さいました。午後1時30分頃、全ての行事が無事終了しました。



主催者挨拶の辻課長代理



参加者一同の集合写真



植樹式の模様が報道された上毛新聞記事

会場には上毛新聞、群馬テレビ、軽井沢FM等の報道関係者も取材に訪れ、ぐんま日独協会の活発な活動を伝えてくれました。(編集者註：上述の上毛新聞以外にも、当日群馬テレビ18:00のニュースのトップで植樹式の模様が放映され、軽井沢FMでは熊川村長のインタビューが生放送されました。) なお、ドイツサロンは次回12月3日、次々回1月7日です。ご参加ください。